

インタビュー 「女性消防団員の活躍」



遠賀町消防団 第1分団
藤本 晴香さん

木守区在住。昨年10月消防団に入団し、第一分団所属。介護などの仕事の傍ら看護師を目指し専門学校に通う学生。5歳と3歳の子どものママ。



ポンプ操法訓練の様子



消防団

地域における消防・防災のリーダーとして、その地域に密着し、住民の生命と財産を守るという重要な役割を担う消防組織。遠賀町では現在69名の団員(うち2名が女性)が活躍中。
第3次遠賀町男女共同参画社会推進計画では、令和6年度までに女性消防団員を3名にすることを目標に掲げている。

入団のきっかけは？

友人のお父さんが消防団員(以下、団員)だったこともあり、小さいころから私にとって消防団は身近な存在でした。そんなとき、知り合いの団員から誘いを受け入団を決めました。

入団してみた印象は？

はじめは、男性が多いのでなじめないだろうとか、一度入団したらなかなか辞められないだろうとか不安がありました。でも入団後は、女性と

どんな活動をしていますか？

毎月1回の消防車両点検のほか、防火水槽の見回り、災害時に備えてのポンプ操法・集団訓練などを行っています。嘉麻市で行われた基礎教育研修の参加者約100名のう

してではなく一団員として認められていると感じました。以前から、人を助ける活動をしたいと思っていましたし、消防団での活動は、看護の仕事につながるなと感じていました。消防服を着た姿は、子ども達からも好評なんです。

ち、女性はわずか4名でしたが、女性だからといってできないことは一つもありませんでしたよ。
また、ポンプ操法の訓練では、いざというときすぐ動けるようにしなければ、現場に迷惑をかけるという責任を感じました。まだ、大会には参加したことはありませんが、女性の大会が開催されるなど、女性が活躍する場が増えていると聞いています。

仕事と家庭の両立は？

周りの団員が配慮してくれますし、活動頻度も定期的なものには月に1回、多くて3回程度なので両立ができています。私の場合、実家が遠賀町にありますし、困ったときは家族の助けが得られる環境にもあります。もちろん活動に

ご自身に変化はありましたか？

参加できないときもありませんが、気軽に相談できるため、無理せず頑張れています。

やはり、災害への危機意識を持つことができたということでしょうか。遠賀町は過去に洪水災害の経験もありますし、活動を通して知識を得ることで、自分が助ける側になっていると意識が変わりました。

また、消防団に入団したことで、コミュニティが大きくなりました。今後は、タンク車を運転できるよう大型免許の取得にチャレンジしたいと思っています。

入団を考えている女性たちにメッセージはありますか？

今、女性消防団員の数は少ないですが、女性だからできないという活動はありません。むしろ、女性ならではの視点や育児等これまでの経験を活動に活かせる強みがあると思います。この記事を読んで私もやってみたい、やれそうと思ってくださる方がいればうれしいかな。